

# 平成29年度 病害虫発生予察情報

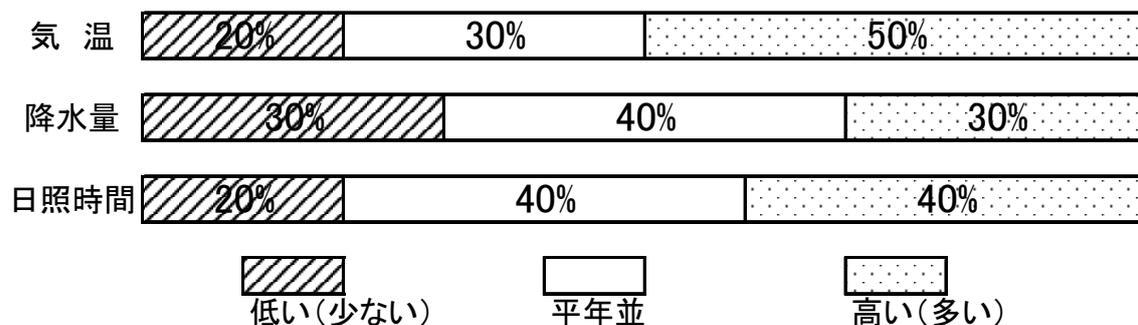
## 発生予報第7号（9月）

平成29年9月4日  
島 根 県

### 予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量	
普通作物	イネ	穂いもち	少ない	
		紋枯病	やや多い	
		白葉枯病	少ない	
		ツマグロヨコバイ	平年並	
		トビイロウンカ	平年並	
		斑点米カメムシ類	やや少ない	
果樹	ダイズ	ハスモンヨトウ	やや少ない	
		ナシ	黒斑病	やや多い
		シンクイムシ類	平年並	
	カキ	ハダニ類	やや少ない	
		カメムシ類	多い	
		うどんこ病	平年並	
野菜	アブラナ科野菜	カキミガ	平年並	
		カメムシ類	多い	
		アブラムシ類	やや多い	
		コナガ	平年並～やや多い	
		アオムシ	やや少ない	
		ハスモンヨトウ	やや少ない	

中国地方1か月予報(9月2日～10月1日・広島地方气象台8月31日発表)  
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



### A. 普通作物

#### 1) イネ

##### (1) 穂いもち

予報内容

発生地方

県内全域（きぬむすめ等で出穂期の遅いもの）

発生量

少ない

予報の根拠

① 穂いもちの発生は少ない。

② 向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 紋枯病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや多い

予報の根拠

①全般の発生量は平年に比べてやや多い。

②向こう1か月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(3) 白葉枯病

予報内容

発生地方 常習発生地

発生量 少ない

予報の根拠

①全般の発生量は平年に比べて少ない。

②向こう1か月の気象は本病の発生にやや抑制的である。

(4) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

①8月26日～31日の巡回調査では、捕獲虫数12.3頭/50株（平年34.7頭）、発生ほ場率66.7%（平年71.6%）で発生量は平年と比べてやや少ない。

②8月第6半旬までの予察灯への総誘殺数は124頭（平年363.0頭）と平年並みである。

③向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

(5) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

①8月29日～31日の巡回調査では、捕獲虫数2.0頭/50株（平年3.4頭）、発生ほ場率41.2%（平年31.2%）で発生量は平年並みである。

②8月第6半旬までの予察灯への総誘殺数は2頭（平年3.1頭）と平年並みである。

③向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

(6) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや少ない

予報の根拠

①8月29日～31日の巡回調査では、捕獲虫数1.3頭/20回振り（平年2.4頭）、発生ほ場率17.6%（平年47.1%）で全般の発生量は平年に比べてやや少ない。

②斑点米カメムシ類の優占種はクモヘリカメムシとアカスジカスミカメである。

③8月第6半旬までの予察灯へのアカスジカスミカメの誘殺数は204頭（平年217.0頭）で平年並みである。

④向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

2) ダイズ

(1) ハスモンヨトウ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや少ない

予報の根拠

①巡回調査での本種幼虫による白変か所数は0.1か所/a（平年0.4か所）、発生ほ場率は6.7%（平年23.8%）と平年より少ない。一部地域では白変か所数が4.6か所/aと多いほ場もみられる。

②フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の累積誘殺数は、県東部で平年比17.9%、県西部で40.9%と平年より少ない。

③向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 ナシ（二十世紀）栽培地帯

発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 8月下旬の巡回調査では発病葉率は21.1%（平年14.1%）であり、平年と比べてやや多い。
- ② 向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

## (2) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 ナシ栽培地帯  
発生時期 平年並  
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 予察ほ場（安来市・出雲市）のフェロモントラップでのナシヒメシンクイ雌成虫の誘殺盛期は平年並みであり、誘殺数は平年に比べてやや少ない。
- ② 向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

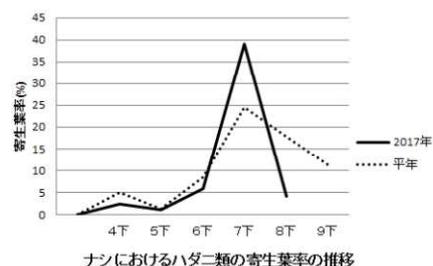
## (3) ハダニ類

予報内容

発生地方 ナシ栽培地帯  
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 8月下旬の巡回調査では、寄生葉率は4.2%（平年17.9%）で少ない。
- ② 向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。



ナシにおけるハダニ類の寄生葉率の推移

## (4) カメムシ類（平成29年度注意報第1号参照）

予報内容

発生地方 ナシ栽培地帯  
発生量 多い

予報の根拠

- ① 予察ほ場（出雲市）の8月第1半旬から第6半旬までの予察灯でのカメムシ類の誘殺数は3164頭（平年714.1頭）と平年に比べて多い。
- ② 向こう1か月の気象は本種の発生を抑制する要因とはならない。

## 2) カキ

### (1) うどんこ病

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯  
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 8月下旬の巡回調査では発病葉率は6.6%（平年11.4%）であり、平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

### (2) カキミガ（第2世代）

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯  
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 第1世代幼虫による芽および果実の被害は平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

### (3) カメムシ類（平成29年度注意報第1号参照）

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯  
発生量 多い

予報の根拠

- ① 予察ほ場（出雲市）の8月第1半旬から第6半旬までの予察灯でのカメムシ類の誘殺数は3164頭（平年714.1頭）と平年に比べて多い。
- ② 向こう1か月の気象は本種の発生を抑制する要因とはならない。

C. 野菜

1) アブラナ科野菜

(1) アブラムシ類

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや多い

予報の根拠

①8月末での巡回調査で発生ほ場率は83.3%（平成67.0%）、寄生株率は20.0%（平成12.7%）で平年に比べてやや多い。

②8月5半旬までの黄色水盤への有翅虫の累積飛来量はやや多い。

③向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制しない。

(2) コナガ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

①8月末での巡回調査では発生ほ場率は25.0%（平成20.6%）、寄生株率は4.2%（平成4.1%）で平年並みである。

②向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

(3) アオムシ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや少ない

予報の根拠

①8月末での巡回調査では平年に比べて発生ほ場率は16.7%（平成36.1%）、寄生株率は2.5%（平成8.9%）で少ない。

②向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

(4) ハスモンヨトウ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや少ない

予報の根拠

①8月末での巡回調査での発生ほ場率は0%（平成8.5%）、寄生株率は0%（平成1.0%）で平年に比べて少ない。

②フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の累積誘殺数は、県東部で平年比17.9%、県西部で40.9%と平年に比べて少ない。

③向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

**島根県病害虫防除所**

(島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科)

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

<http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>